

「第9回大学院生生活実態調査報告書」（令和4年度学生生活実態調査）のフィードバックについて

この表は令和4年11月に実施した第9回大学院生生活実態調査の結果、「問題がある」、「改善の必要がある」、あるいは「他より優れている」と判断された事項を研究科(教育部)ごとにとりまとめ、その対応計画とその計画についての進捗状況を示したものです。これら事項につきましては定期的に進捗状況を更新していく予定ですので、学生、教職員のみならず皆さまにつきましてはお気づきの点や改善に係るアイデア等がございましたら、下記までお知らせくださいますよう、お願いいたします。

連絡先：徳島大学学生支援課
E-mail：kyseikatuk@tokushima-u.ac.jp

部局名	調査結果から読み取れる事項とその対応計画		対応計画実行の進捗状況等
	事項（問題点や優れた点）	対応計画等	
創成科学研究科 地域創成専攻	大学の教育課程に満足している割合が高い。（「満足している」(53%)、「どちらかといえば満足している」(40%)）	この調子で良い。	在学生との懇談会等を通して得た、学生からの生の声を参考として、引き続き問題点の把握とその改善に努め、今後も継続性が保たれるようにしたい。
	キャンパスライフ健康支援センター総合相談部門（学生相談室）を利用した学生は少なく（7%）、利用未経験学生は多い（87%）。	掲示などでキャンパスライフ健康支援センター総合相談部門の利用を呼び掛ける。	掲示などでキャンパスライフ健康支援センター総合相談部門の利用を呼び掛ける。総合相談部門では遠隔による相談の拡充を図っており、利用者の増加が期待される。
	指導教員とコミュニケーションはとれている。（「充分とれている」(67%)、「ある程度とれている」(27%)）	この調子で良い。	在学生との懇談会等を通して得た、学生からの生の声を参考として、引き続き問題点の把握とその改善に努め、今後も継続性が保たれるようにしたい。
	語学力を高めることをしている。（「TOEIC、TOEFL等を受験する」他、合計67%）	この調子で良い。	在学生との懇談会等を通して得た、学生からの生の声を参考として、引き続き問題点の把握とその改善に努め、今後も継続性が保たれるようにしたい。
	キャリア支援室の利用率が高い。（「現在も利用している」20%、「以前に利用したことがある」53%）	この調子で良い。	在学生との懇談会等を通して得た、学生からの生の声を参考として、引き続き問題点の把握とその改善に努め、今後も継続性が保たれるようにしたい。
創成科学研究科 臨床心理学専攻	現在の精神状態で「なんとなく不安」（33%）、「落ち込みやすい」（22%）と不調を感じている学生の割合が高い。	掲示などでキャンパスライフ健康支援センター保健管理部門や総合相談部門の利用を呼び掛ける。	普段から掲示などでキャンパスライフ健康支援センターや総合相談部門の利用を呼び掛ける他、研究指導計画書・報告書を通じて、学生1人に対して複数の教員が定期的に面談を行うことで、学生の不調等を早期発見できるように努める。
	キャンパスライフ健康支援センター総合相談部門（学生相談室）を利用した学生は少なく（11%）、利用未経験学生は多い（89%）。	掲示などでキャンパスライフ健康支援センター総合相談部門の利用を呼び掛ける。	掲示などでキャンパスライフ健康支援センター総合相談部門の利用を呼び掛ける。総合相談部門では遠隔による相談の拡充を図っており、利用者の増加が期待される。
	現在の研究環境について、「どちらかといえば不満足である」（44%）と不満を感じている学生の割合が、やや高い。	研究設備の不足などについては、専攻長との懇談会などで具体的な情報を提供してもらう。	在学生との懇談会の席上にて意見聴取する予定であり、機器の更新等も考慮しながら、研究環境の維持・改善に努める。
	研究テーマについて「満足している」（22%）、「どちらかといえば満足している」（78%）を満足している。	この調子で良い。	在学生との懇談会等を通して得た、学生からの生の声を参考として、引き続き問題点の把握とその改善に努め、今後も継続性が保たれるようにしたい。
	キャリア支援室を利用したことがない学生が多い（100%）。	掲示などでキャリア支援室の利用を呼び掛ける。	普段から掲示などでキャリア支援室の利用を呼び掛ける。臨床心理学専攻の大学院生の就職活動は他専攻一般と異なるものがあり、そこに対応していないと考えられている可能性がある。在学生との懇談会等を通して、学生からの声を参考として、問題点の把握とその改善に努めたい。

部局名	調査結果から読み取れる事項とその対応計画		対応計画実行の進捗状況等
	事項（問題点や優れた点）	対応計画等	
創成科学研究科 理工学専攻	質問62～73：概ね高評価であり、学生の期待する教育や研究指導ができており、研究環境の満足度も高いが、一部の学生は大きな不満を持っているようである。	充実した教育を維持していく一方で、学生の悩みや不満に対してのケアが必要と思われる。アドバイザー教員との面談などのサポートで対応できないか。	充実した教育を維持していく一方で、学生の悩みや不満に対してアドバイザー教員との面談をサポートしていく。
	質問77：概ね高評価であるが、一部の学生にとっては、読めない電子ジャーナルが多いと感じているようである。	比較的スピーディーに取り寄せていただいていると思うが、教員も含めて電子ジャーナルの充実に努力すべきであろう。	電子ジャーナルの充実には予算の問題もあるものの、読めないジャーナルについては比較的スピーディーに図書館HPから取り寄せが可能である。
	質問34：キャンパスライフ健康支援センター保健管理部門があることを知らない学生が10%ほどいる。	入学時のガイダンス等で当該施設を周知する機会を設ける。	次年度のガイダンスで周知機会を設けるように担当者をお願いした。
	質問30：質問29で就職や進路に悩みを持つ学生が30%を超えているのに、相談先としてキャリア支援室の利用がない。	入学時のガイダンス等で当該施設を周知する機会を設ける。	次年度のガイダンスで周知機会を設けるように担当者をお願いした。
	質問39：キャンパスライフ健康支援センター総合相談部門（総合相談室）を知らない学生が30%を超えている。	入学時のガイダンス等で当該施設を周知する機会を設ける。	次年度のガイダンスで周知機会を設けるように担当者をお願いした。
	自由記述欄に大学事務室の対応が良くないという厳しいコメントが見られる。しかしながら、95%程度の学生が満足していると回答している。	引き続き、現状の姿勢を継続して欲しい。学生にとって良い対応が行われていると思う。	現状で問題ないので、引き続き現状の姿勢を継続していると思います。
	96%程度の学生が、授業内容や進め方に満足している。	現状の授業内容や進め方で問題ないように思う。大学院として相応しい内容の授業が行われていると思う。	現状で問題ないので、引き続き現状の姿勢を継続していると思います。
	自由記述欄に研究指導の対応が良くないという厳しいコメントが散見される。しかしながら、97%程度の学生が満足していると回答している。	現状の研究指導で問題ないように思う。全体的に、学生にとって、大学院として相応しい研究指導が行われているように思う。	現状で問題ないので、引き続き現状の姿勢を継続していると思います。
	設問50：教育課程の満足度が96%以上であり、修士・博士前期課程としての教育を実施できている。	今後も修士・博士前期課程としての充実した教育を継続して実施していく。	次回以降のアンケート結果の動向を注視し、充実した教育を継続する。
	設問63：研究指導についての満足度が97%以上であり、修士・博士前期課程としての高度な研究指導を実施できている。	今後も博士後期課程としての充実した研究指導を継続して実施していく。	次回以降のアンケート結果の動向を注視し、充実した教育を継続する。
	設問81：海外渡航の目的として留学や学会参加が少ない。	コロナ禍で海外渡航に制限があったことから事例が少ないためと考えられるため、今後の動向を注視する。	令和5年度に海外渡航の制限が緩和されたため、次回以降のアンケート結果の動向を注視する。
	設問82：国際会議における研究発表の経験がない割合が80%であり、発表経験者の割合が低い。	コロナ禍で海外渡航に制限があったことから事例が少ないためと考えられるため、今後の動向を注視する。コロナ禍からの回復に対応した学会参加への支援体制を強化する。	令和5年度に海外渡航の制限が緩和されたため、次回以降のアンケート結果の動向を注視する。学会参加の支援として、徳島大学教育研究助成奨学金を活用した大学院生への研究発表援助を継続する。
	設問47：行くたびに言われることが違う。全ての対応が遅い。	統一した対応、迅速な対応のためのマニュアルなどを見直す。	なるべく統一した内容を伝えるようにしている。
	設問59：教授、講師らの一方的な知識の伝達が目立つ。	座学以外では、アクティブラーニングを利用することで、深く理解してもらえるように努める。	アクティブラーニングや演習を介すことで、深く理解してもらえるようにしている

部局名	調査結果から読み取れる事項とその対応計画		対応計画実行の進捗状況等
	事項（問題点や優れた点）	対応計画等	
創成科学研究科 生物資源学専攻	【質問31】 いらいらする(6%)、なんとなく不安(6%)、落ち込みやすい(22%)、やる気がでない(16%)と、50%の学生が問題をかかえている。 【質問39】 一方でキャンパスライフの総合相談室を利用した率は19%と低い。	担任教員や指導教員が学生を見守り、相談に応じ、問題があると判断した場合は、早期に総合相談室を利用するように勧めるなどの適切な対応を行う。	学生の見守りと相談により、総合相談室の受診に繋げ、相談室と連携して対応し、他教員や事務と情報共有して協力体制をとり、適切な対応を継続している。
	【質問93】 就職希望者94%のうち、【質問95】 48%は研究職を希望している。しかし、【質問93】 後期課程に進学したい者は居らず、経済的支援があれば進学したいとする者でも6%である。	研究職の魅力を啓蒙し、後期課程を身近に感じてもらい、進学のハードルが高くならないようにして、後期課程で研究し、研究職に就きたいと思わせる方策を考える。	本専攻に対応する博士後期課程で学位取得後に就職した先輩に、博士論文研究、研究職、就職について話してもらい、ドクターの良さを啓蒙してもらう活動を実施している。
	【質問80】 25%が海外渡航1回以上行っているが、【質問81】 学会参加などの学術的な渡航ではない。	国際的な学術的活動を促す必要があり、学術交流協定校との学生交換留学などの学生交流や共同研究などの研究交流を促進する。	研究者および学生間の学術交流促進を目的に、新たに国際交流協定を締結し、国際的学術活動を促進している。
	【質問46】 大学事務室に「満足」と「どちらかと言えば満足」を合わせると88%と満足度は高い。	本専攻の事務は、学生に対して親身で細やかな対応をしており、今後も継続させる。	左記のような事務対応を継続している。

部局名	調査結果から読み取れる事項とその対応計画		対応計画実行の進捗状況等
	事項（問題点や優れた点）	対応計画等	
創成科学研究科 創成科学専攻	設問50：教育課程の満足度が90%以上であり、博士後期課程としての教育を実施できている。	今後も博士後期課程としての充実した教育を継続して実施していく。	今後も継続して教育を進めていく。
	設問63：研究指導についての満足度が90%以上であり、博士後期課程としての高度な研究指導を実施できている。	今後も博士後期課程としての充実した研究指導を継続して実施していく。	今後も継続して研究指導を進めていく。
	設問75、76：図書館の利用頻度が高く、利用目的も図書や電子ジャーナルの利用が多い。	最新の研究成果を入手できるように、学生が電子ジャーナルに容易にアクセスできる環境を継続していく。	付属図書館との相談になるが、今後も情報にアクセスできる環境を継続していく。
	設問81：海外渡航の内容が学術調査と社会活動で、留学や学会参加が少ない。	専攻ができて1年目であること、コロナ禍で海外渡航に制限があったことから、事例が少ないためと考えられる。学年進行を通してデータを蓄積する。	コロナ禍にかかる制限がなくなったため、次第に増加することが期待できる。次回の分析時に検討を行う。

部局名	調査結果から読み取れる事項とその対応計画		対応計画実行の進捗状況等
	事項（問題点や優れた点）	対応計画等	
医学研究科	アンケートの回収率が低い。	真に重要な質問をしていて、学生の生活、学修の問題改善に役立てることができるのであれば、修士や博士の申請時にアンケートに回答していることを必須にすると良い。	委員会において学位申請時にチェックすべき項目に入れることを教育・研究委員会で検討する。
	セクハラがあっても誰にも相談していない。	相談することが状況をかえって悪くすると思われないように、慎重で誠意のある対応で、問題解決の好例があることの認知を高める。	学生にはオリエンテーション時に強調して周知することを検討する。教員側には基本的な対応法などを定期的にメールなどで周知することを検討する。
	アカハラにおいても誰にも相談していない人がいる。	学生のよく立ち入る、事務室にセクハラ、アカハラの場合に信頼できる相談窓口を示すポスターのようなものを掲示しておくのが良いのでは？	学生にはオリエンテーション時に強調して周知することを検討する。教員側には基本的な対応法などを定期的にメールなどで周知することを検討する。
	総合相談部門の利用、認知度が低い。	知らなくても大学院生活に差し支えないのであれば、あまり重大な問題を抱えている人は少ないので、結構なことかもしれない。	上の二つと合わせて、学生に対して、目に見えるように認知度を上げる工夫をする。事務の窓口にもポスターの掲示なども検討する。
	研究指導やコミュニケーション、研究環境に関して満足度が高い。	好ましい状況である。	今後も研究指導、コミュニケーション、研究環境について高い質を保つ。
	図書館について利用頻度が低い。	冊子体からのコピーでなくPDFのダウンロードとなっているので、時代の流れであり、図書館の役割を再検討する必要がある。	図書館の空調が快適でないために利用しにくいところも耳にするので、図書館に伝える。
	家族、住居、通学について、あるいは収入支出について、家族同居と別居、留学生か、あるいは社会人大学院生かで状況は大いに異なると思えるが、分析は留学生のみを別にして調べているのみなので、実態が把握しづらい。	より適切な分析を行う。	アンケート作成時に対応するように求めていく。
	健康状態（睡眠時間）について、70%以上が6時間未満だが、それ自体は普通のことのように思われる。	睡眠時間の短い人が、その後の設問で、体調不良、悩み、不安などを訴える率が高いかどうかを分析することが必要。	アンケート作成時に対応するように求めていく。
犯罪被害、交通事故に関しては、アンケートにより具体的な改善を是非とも行いたいところだが、歩行者か自転車か自動車か、あるいは通学途中か、深夜なのかなど、対策を考えられるほどアンケートが練り込まれていない。	より適切な設問にする。	アンケート作成時に対応するように求めていく。	

部局名	調査結果から読み取れる事項とその対応計画		対応計画実行の進捗状況等
	事項（問題点や優れた点）	対応計画等	
口腔科学研究科	教員からパワハラを受けたとの回答があった。	教員対象のパワハラ防止の講習会を継続する。	講習会を継続している
	盗難被害の報告がある。	物品などを放置しないよう注意喚起を継続する。	注意喚起を継続している。
	学外からネットワーク経由で図書館を利用する方法がわからない学生がいる。	事前に学内で登録設定が必要であることを、図書館のオリエンテーションで強調してもらう。	入学時のオリエンテーションでの利用方法説明を継続している。
	コロナ禍で一時帰国し、修学年限の延長を余儀なくされた留学生に対しても、修学年限を超えた期間に授業料の減免や奨学金の申請をしてほしい。	やむを得ない事情があると認められた場合には、授業料免除や奨学金への申請が可能となる場合があることが選考基準（選考要領）に明記されている。事務及び指導教員を通じて周知を徹底する。	該当しそうな学生には指導教員から通知するよう依頼している。
	大学院生数が少ない上、アンケート回収率が低いため、有意なデータが得られていない。	アンケート回答によって改善された事例を示すことで回答意欲の向上を期待する。	有意なデータが得られていないため、改善事例を収集できないことから、所属分野の教員から回答依頼を行うことに変更する

部局名	調査結果から読み取れる事項とその対応計画		対応計画実行の進捗状況等
	事項（問題点や優れた点）	対応計画等	
薬学研究科	悩みごとを「誰にも相談しない」と回答した学生は、後期課程では減少したが、前期課程では前回調査よりも多くなっている。	総合相談部門や保健管理部門のサービス内容を学生に周知徹底し、有効利用を促す取り組みを継続していく。	積極的利用を促す啓蒙活動をより促進するために、キャンパスライフ健康支援センター保健管理部門長を講師に薬学部でFD研修会を行った。
	95%以上の学生が教育課程に満足しており、特に後期課程で満足している学生が増加した。	引き続き、教育理念や教育方針の入学前周知に一層努める。	教育プログラム評価委員会によるシラバスチェックなど、学生の教育環境の改善に努めている。
	外国語の習得努力について「何もしていない」と回答した学生が前回調査より大幅に増加している。	COVID-19の影響で中止されていた国際学会が通常に戻りつつあるため、国際学会への参加を促すなどの積極的な対策を行う。	キャリアパスデザイン講義で外国語学習の必要性を説明するなど、外国語学習を促す取り組みを行なっている。また、国際学会参加への援助を行い、国際学会への積極的な参加を促している。
	アンケート回収率は、COVID-19流行下かつWEB調査であったため、前回調査から大きく減少した。	回収率の向上にむけて、各研究室に回答を依頼するなどの新たな対策を行う。	学務委員会から各研究室の指導教員および講義担当教員にアンケート回収を依頼している。

部局名	調査結果から読み取れる事項とその対応計画		対応計画実行の進捗状況等
	事項（問題点や優れた点）	対応計画等	
医科栄養学研究科	教育理念や教育方針に沿った教育の実践度については、博士前期課程、博士後期課程共に実践できていると思うと回答した者が100%であった。	引き続き教育理念や教育方針に沿った教育の実践が継続できるように検討する。	引き続き、教育理念や教育方針に沿った教育の実践が継続できるように、教授会などで周知する。
	教員とのコミュニケーションが全く取れていないという学生はいない点は評価できるが、博士後期課程においてコミュニケーションがあまりとれていないと回答した者が31%（13人中4人）あり、研究指導についての満足度においてもどちらかといえば不満足であると回答したのも15%（13人中2人）であった。	博士後期課程の研究指導の満足度で「どちらかといえば不満足」と「コミュニケーションがあまりとれていない」と回答したものの属性について調査し、対策を検討する。	博士後期課程の研究指導の満足度で「どちらかといえば不満足」と「コミュニケーションがあまりとれていない」と回答したものの属性について調査したところ、ほとんどが社会人大学院生であった。社会人大学院生のコミュニケーションのあり方について、検討中である。
	博士前期課程学生の回答率が前回の60.4%から33.9%に低下した。	回答率の向上のための対策を検討する。	研究室でのセミナーなどの機会に回答してもらうなどの方策を検討している。

部局名	調査結果から読み取れる事項とその対応計画		対応計画実行の進捗状況等
	事項（問題点や優れた点）	対応計画等	
保健科学研究科	学生が抱える悩みの解消としての「研究時間の確保」が必要である。	社会人学生や専門職有資格者が多く、勉学や研究に割く時間の確保に苦勞している一面が示されているため、奨学金制度の周知など、就労活動が研究活動の障害とならないようにする方策を検討する。	保健学科掲示板や教務システムでの奨学金制度の周知に努めると共に、オンデマンド授業の活用を促進した。
	「国際学会で研究発表をしたことがない」学生がかなりの割合を占める。	遠隔会議形式等の国際学会参加を推進し、参加費の支援などの方策を検討する。	睦盾会（同窓会）からの寄附金の一部を国際学会参加のための支援金として活用することとなった。
	前期課程の18%、後期課程の50%が学内でセクハラやアカハラ等のハラスメントを受けたことがあると回答している。	引き続き各教員の意識改革が必要であり、定期的な研修の機会を設ける等、ハラスメントを防ぐための対策を行う。	ハラスメントの予防と対応を演題として令和5年度保健学科FD研修会を開催した。

部局名	調査結果から読み取れる事項とその対応計画		対応計画実行の進捗状況等
	事項（問題点や優れた点）	対応計画等	
先端技術科学教育部	設問58：1名を除いて、授業の内容や進め方について満足していると回答があり、博士後期課程としての教育を実施できている。	これまでの方向性を継続しつつ、分野の最新動向に合わせて内容や教育技術を更新し、学生が現代の課題に対応できるスキルを養う手助けをする。	学生の意見を定期的に取り入れることで、内容や教育技術の質の向上を目指している。
	設問50：教育課程の満足度が91%以上であり、博士後期課程としての教育を実施できている。	今後も博士後期課程としての充実した教育を継続して実施していく。	次回以降のアンケート結果の動向を注視し、充実した教育を継続する。
	設問63：研究指導についての満足度が94%以上であり、博士後期課程としての高度な研究指導を実施できている。	今後も博士後期課程としての充実した研究指導を継続して実施していく。	次回以降のアンケート結果の動向を注視し、充実した教育を継続する。
	設問76：図書館の利用目的として博士後期課程は前期課程と比較して電子ジャーナル・データベースの割合が高い。	最新の研究成果を入手できるように、学生が電子ジャーナルに容易にアクセスできる環境を継続していく。	附属図書館より「令和7～9年度における全学共通経費による電子ジャーナル等整備方針」が決定されており、これに従ってアクセス環境を継続する。附属図書館が開催する「電子ジャーナル・文献検索データベース関連ウェビナー」等への参加を促し活用を進める。
先端技術科学教育部 (物質生命システム工学専攻)	質問62～73：概ね高評価であり、学生の期待する教育や研究指導ができおり、研究環境の満足度も高いが、一部の学生は大きな不満を持っているようである。	充実した教育を維持していく一方で、学生の悩みや不満に対してのケアが必要と思われる。アドバイザー教員との面談などのサポートで対応できないか。	充実した教育を維持していく一方で、学生の悩みや不満に対してアドバイザー教員との面談をサポートしていく。